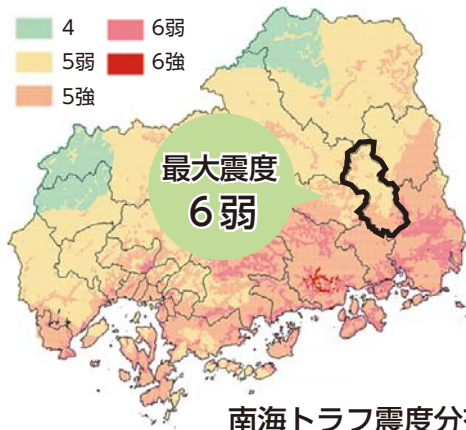


南海トラフ巨大地震の新たな被害想定

令和6年能登半島地震などの、近年発生した地震から得られた最新の知見やシミュレーションなどを踏まえて、南海トラフ巨大地震の広島県の被害想定が発表されました。

南海トラフ巨大地震は、今後30年以内に「60～90%程度以上」の確率で発生するとされています。府中市内でも最大で、立ってられないような震度6弱の揺れが想定されています。命を守るために、ひとりひとりが日頃から地震へ備えましょう。



New 市内の被害想定

建物被害

- ▶ 全壊…246棟
- ▶ 半壊…1,300棟



被害想定は
こちら

家庭でできる地震の備え



【家中】

- ☐ 家具の固定
- ☐ 高いところに物を置いていない
- ☐ 非常時の持ち出し袋を作っている
- ☐ ローリングストックを行い、水や食料などを備蓄している



【避難】

- ☐ 家族全員の避難経路や集合場所、安否確認方法を考えている
- ☐ 経路に危険な場所はないか確認
 - ▶ 土砂崩れが起きそうな場所
 - ▶ ブロック塀やガラスの多い場所

チェックがついていないものは、すぐに対策しましょう。



☎危機管理課(☎44-9119)

ふちゅう

歴史散歩 Vol.177

こうしばた
孝子畠

—上下町の孝行者—

☎教育政策課(☎44-9024)

孝子畠
(市史跡)



上下町小堀にある「孝子畠」と書かれた石碑を知っていますか。この石碑の裏面には、江戸時代中期、小堀村の榎原で生まれた市松の孝行ぶりが刻まれています。

市松は14歳で母を亡くした後、65歳の父・庄三郎を支えながら慎ましく暮らしました。父の世話をかいたが続き続けた市松の孝行ぶりは評判となり、ちょうど幕府直轄領内の孝行者を調査していた徳川幕府の老中・戸田氏教の耳にまで届きます。寛政5年(1793年)、市松は幕府から銀5枚を褒賞として授けられ、父・庄三郎には1日米5合が生涯にわたって支給されました。市松の思いやり深い心に、父も深く感謝し、二人は仲良く暮らし続けたそうです。その功績を称え、寛政7年(1795年)に「孝子畠」と刻まれた石碑が建立されたと伝えられています。

新しい年を迎えたこの時期、私たちも市松のように家族を思いやる心を大切にしながら、心豊かな一年を過ごしていきたいものですね。